

今月のコラム

得意分野の価値を組合せ、 新しい需要を創造しよう



株式会社花ごころ 小塚純一

今年も春迎えました。会社の玄関の花壇もカラフルになっています。

最近健康の為、40代にしていた自転車通勤を復活しました。すると、日ごろ目につかなかった景色、風の匂いまでが新鮮です。

先日、韓国に行く機会があり、古い町並みで、実際に住んでいらっしゃる文化保存地区の一角におしゃれな山草ショップがありました。ショウウィンドーを覗いた時、写真を撮りました。買い求める方のセンスが伺え、なかなか面白かったです。

そこで感じたことは、豊かな暮らしには緑は必需品。そこに住む人たちのセンスの良い魅力的な暮らしが感じられました。

定年を65歳に延長した65歳が多数定年を迎える今年。従来の園芸の視点で楽観的に考えれば、家庭園芸人口は好調に推移するとも思えます。現実はその思えない、ではどうしたら関心を持っていただけるのだろうか。

自然への回帰や、食の安心・安全に対する関心から、自ら野菜を栽培するという家庭菜園は今年も継続増加すると予想します。私たちの提供する本物の良い土や、良い苗だけでなく、それを暮らしとしての憧れにまで魅力上げる必要があります。

衣料品でも価格、品質ともに10年前と比較すると格段に進化している。園芸はどうか、従来の趣味としての園芸との変化は少なく、未経験の方をも魅了する商品サービスは育っていない。需要の創造はどの業界でも大切ですが、園芸では、その楽しさや魅力をわかりやすく表現できる商品を提供できること、暮らしに取り入れたい魅力を伝えることに「業界各社がそれぞれの持ち味で連携すること」に需要を生むヒントがありそうです。

韓国の店先で見た楽しみ方のように、デザイン、さらに住環境を支援するサービスまで広げれば、暮らしを豊かにできます。他の余暇レジャーより魅力的で、楽しむためのノウハウをお客様に伝えてゆくことで、業界は需要を創造できると感じています。

さて今年は何を仕掛けようか、今だからこそ、元気の良い皆さんといろんな仕掛けに挑戦したいと思います。





海外研修ツアー

「フロリアード&ハンプトンコートフラワースhow」視察研修 6月30～7月6日、参加者募集

オランダで10年に1回開催される世界園芸博覧会「フロリアード」が10年ぶりにフェンローで開催されます。そして、伝統ある世界のフラワースhow「英国・ハンプトンコートフラワースhow」が開催されます。

この2大花イベントを見て、さらに欧州トップガーデンセンター、花の生産流通、さらに「オランダ・ベルギーと英国の名園」を視察研修します。

前回のフロリアードツアーでは、ガーデンを考える会会員が30名ほど参加し、その後のビジネスに生かすとともに、ツアーで同行した参加者とも人脈が広がり、大変喜ばれました。

この機会に、当会が主催する研修ツアーに参加し、今後のビジネスにつなげていただければ幸いです。

詳細は右記より ▶ <http://www.npogarden.com/houkoku.htm>





カエデ
kaede

花芽つき球根でおしゃれに手軽に楽しむ

「ホームスイートバルブ2012」

ヨーロッパで人気の高い、家の中で一足先に春を楽しむ花芽つき球根を、日本でも同じように楽しんでもらおうと1月、東京・大田市場花き部で「ホームスイートバルブ2012」が開催された。

花芽つき球根は、低温処理された球根を栽培し、すでに花芽が上がった状態でお届けされる鉢物。水を与えるだけですぐに咲き始め、2～3週間は楽しめるという、忙しい現代人のライフスタイルにぴったりの楽しみ方ができる。クリスマス・年末商戦が終わったあと、花の閑散期ともいえる1～4月頃にかけて出荷されるので、ガーデンセンターの冬の商材として注目が高まっている。



大田市場花き部で開かれたホームスイートバルブ2012展示会場



花だけでなくお雛様を飾っていつ売るかを提案

北越農事の園芸見本市

バラ・宿根草・花木のボーダーレスを提案

新春には全国各地で園芸問屋による「商談会」が開催されたが、北越農事の商談会で今年のキーワードになったのは「ジャンルのボーダーレス」。例えば、バラと宿根草は庭やコンテナで混植してこそお互いを引き立たせるが、ガーデンセンターの店頭では苗の売り場が別々になっており、消費者に伝わりづらかった。そこで会場では、モデルガーデンの写真パネルの前に、花の写真付きのバラ苗と宿根草苗を、実際の草丈のバランスを再現して集めた売り場を提案。バラがガーデンセンターの命綱になりつつある今だからこそ、バラに合わせて楽しむ植物の同時提案が不可欠という、ここ数年の同社のビジョンをより明確に打ち出した。

バラと宿根草を混在してひとつの売り場に！
品種単体の魅力だけでなく、庭全体の楽しみ方を売り場で分かりやすく伝えたい



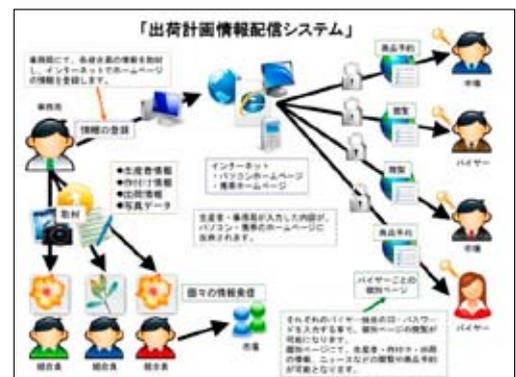
インターネット予約サイト「ゆたかとめぐみ」

岐阜花き流通センターがビジネス大賞

岐阜花き流通センター農業協同組合は、情報化時代に沿った取り組みとして流通業界では初めて鉢物植物のインターネットを介した受注システム、「ゆたかとめぐみ」を立ち上げた。これは生産者が入力した出荷計画情報などを、市場担当者および買参人が閲覧し、商品の予約ができるシステム。

この取り組みは花の産業分野における流通・販売面で新技術の開発・導入及び新たな需要開発についての先進事例として高い評価を得て、2011年の「日本フラワー・オブザイヤー・ビジネス大賞」を受賞した。

http://yoyaku.gifukaki.or.jp/contents_lo/company.html





被災地に苗を送りました。

(株)ハルディン 篠原英子



2011年3月11日の大地震、大津波から、早一年以上が過ぎました。復興に向けた具体的な様々な動きが被災地で続けられる中、まだまだ苦しく不自由な状況にある人たちのことを思うと心が痛みます。

弊社では、被災地への「復興支援」と力強く呼べるような大それたことはなかなかできませんが、去年の夏にいくつかの被災地に向けて花苗を送ったことがありました。苗を送った地域のひとつは、津波で家屋の一階部分が被害を受け二階部分で暮らしながら家を直しているようなところでした。

津波の後、その地域にあった「子供広場」は瓦礫が残って危険な状態となり、子供達が安全に遊べる場所もなくなってしまいましたが、ヘドロや瓦礫を掘り起こして取り除き、子供達による手作りの新しい広場作りがはじめられたのです。ホームセンターで購入した柵と、瓦礫から拾ってきたブロックを使い花壇を作り、そこに笑顔で苗を植える子供たちの姿を見ると、植物がもたらす「幸せ」を実感することができ大変嬉しくなりました。

しかしながら、この後また自然による悲劇がもたらされます。苗を植えてしばらくすると、台風15号の通過に伴い記録的な大雨にみまわれ、この広場はすっぽりと冠水してしまいました。強風も重なったため海水も広場に入ってきてしまい、苗も花壇の柵も流され、水が引いたあとは悲惨な状況になってしまいました。地震、津波のあと、今度は台風が来るとは…。子供達は、また花が植えられるように広場を片付けたということでしたが、その話を聞くと何ともやり切れない気持ちになりました。

自然に振り回されることも多いですが、自然の一部とも言える花や野菜など植物を供給する立場の人間として思うことはやはり植物を育て、植物を愛で、その生長の姿から、生きる希望と安らぎを感じてほしいと思うことです。

子供達の笑顔を見られるように、頑張って植物を作っていきます。

会員紹介

たけいち農園

春はゼラニウム・ポットローズをメインに生産しています。ゼラニウムは寄せ植え商材として3.5寸で仕立てています。ポットローズは母の日用もごさいます。秋には冷涼地である軽井沢の農場で環境を活かして耐寒性と根張りの良いガーデンシクラメンを生産しております。

たけいち農園ではよりよい商品を生産することは勿論のことですが、お客様に信頼して頂けるよう毎年の品質維持を心がけています。

また、定番商品だけでなく新しい品種や生産者だからこそ出来る商品(たけいち農園オリジナル商品としてシクラメンの三色植え【メリメロ】等)を生産し販売店や消費者にアピールできればと思っております。



〒367-0207 埼玉県本庄市児玉町下真下114
TEL 0495-72-2611 FAX 0495-72-6201